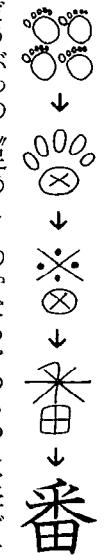


番

二年 筆順 一画 平采番
画数 12
ワン バン

使い方

▽すべりだいや、ぶらんこであそぶときは、みんなでじゅん番にならんで、なかよくあそびます。



成り立ち

どうぶつの「足あと」のかたちをあらわした字です。けものとおつた足あとを見ると、右、左、右、左と、きそく正しく「じゅんばん」にならんでいます。それで

「じゅんばん」というみをあらわしたものです。

また、「じゅんばん」でしごとに「当たる」ことを、「当番」といいますが、その「当番」というみにもつかわれます。

▽交番（おまわりさんが、本署からこうたいでやつきて、しごとをするところ。おとしものをとどけたり、みちをたずねたりするところです。）

▽火の番（火事にならないように、火のもとを見てまわる人）

▽番台（おふろやさんの入り口にある、たかい台。ふろだいをうけとつたり、きものやはきものがなくなつたりしないようにみはつたりする人が、するところ）

▽番号（じゅん番を、すうじであらわしたもの）

▽番地（すんざいるところにつけた番号。ゆうびんをくばつたり、人をたずねたりするときに、べんりなようには、人のすんでいるところをこまかくくぎって、番号をつけたものです。）

父

二年 四画
画順 4
オノ フン
ノハグ父
ちち

成り立ち



手に「斧」をもつたかたちをあらわした字です、でんきもガスもせきゆもないむかしは、木をつかつたので、木をきることはかかせないしごとでした。そのしごとを先に立つてするのが「父おや」でしたから、「ちち」というみをあらわしました。

それで、「斧」のことを「斧」といいます。「父のだい」など「ぐ」だったからです。

「斧」の「斤」が、斧の形を表したものであるから「斧」は「父の斤」という意味で作られた道具であつたかもしれない。とにかく「父親の象徴」であつたことは間違いない。父親も父、斧も父、であるから。」

使い方

▽あした、わたしの学校で父母かいがあります。

▽わたしの父は、まいにち、かいしやにいきます。かえつてくると、わたしとあそんでくれます。でも、まいにちではありません。

▽むかし、あるところに、父おやと一人の男の子がすんでいました。父おやは、たいそうまずしかつたうえ、つまをなくしていましたので、男の子は、うちのしごとや、ちよつとしたてつだいなどをして、父おやをたすけて、はたらきました。

▽父おやと、母おや

熱語例

▽父おや (父おやと、子ども)

▽父子 (父おやと、祖先)

▽父祖 (祖先) ごせんぞさま。おとうさんの、おとうさ

ん、そのまたおとうさん、というふうに、むかしにさかのぼつて生きていた人たち。「この、たいせつな父祖からのとちを、まもらなければならない」などといいます。)

▽祖父 (おとうさんの、おとうさん。おじいちゃんのことです。)